

## 安全データシート (SDS)

### 1. 化学品及び会社情報

製品の名称 : リバーコート  
会社名 : 株式会社リバーズジャパン  
住所 : 〒956-0812 新潟県新潟市秋葉区中新田 357  
電話番号 : 0250-47-6071  
FAX 番号 : 0250-24-0181

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS 分類

物理化学的危険性			
引火性液体	区分外	自己発熱性化学品	区分外
水反応可燃性化学品	区分外	酸化性液体	分類できない
有機過酸化物	分類できない	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性			
急性毒性 (経口)	区分外	生殖細胞変異原性	分類できない
急性毒性 (経皮)	区分外	発がん性	区分 1A
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)	分類できない	生殖毒性	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分外	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 1 (中枢神経、呼吸器、腎臓、心臓) 区分 3 (気道刺激性)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2B	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 1 (中枢神経、呼吸器、心臓)
呼吸器感作性	分類できない	吸引性呼吸器有害性	分類できない
皮膚感作性	分類できない		
環境に対する有害性			
水生環境有害性 (急性)	区分 3	水生環境有害性 (長期間)	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない		

#### GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

- H320 眼刺激
- H370 臓器 (中枢神経、呼吸器、腎臓、心臓) の障害
- H335 呼吸器への刺激のおそれ
- H372 長期にわたる、または反復ばく露による臓器 (中枢神経、呼吸器、心臓) の障害

H402 水生生物に有害

H350 発がんのおそれ

#### 注意書き

##### 安全対策

- P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
- P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- P271 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- P261 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
- P270 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
- P264 取扱後は手をよく洗うこと。
- P273 環境への放出を避けること。
- P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

##### 応急措置

- P308+P313 ばく露またはばく露の懸念がある場合は医師の診察/手当てを受けること。
- P314 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

##### 貯蔵

- P405 施錠して保管すること。

##### 廃棄

- P501 内容物/容器を国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

#### GHS 分類区分に該当しない他の危険有害性

発がん性物質成分を 0.3%未満含有する（エチレン・酢酸ビニル共重合水性エマルジョンに関して）。

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

一般名：珪藻土塗材

成分	含有量	化学式	CAS No.
エチレン・酢酸ビニル共重合水性エマルジョン	23%	$(C_2H_4)_m(C_4H_6O_2)_n$	24937-78-8
水	41%	H <sub>2</sub> O	7732-18-5
珪藻土（結晶質シリカ含有量 0.2%）	31%	SiO <sub>2</sub>	61790-53-2
（スクロース/K/Ca/Na）発酵液	5%	社外秘	社外秘

危険有害性成分：エチレングリコール（エチレン・酢酸ビニル共重合水性エマルジョンに関して）

化審法官報整理番号：6-6（エチレン・酢酸ビニル共重合水性エマルジョンに関して）

安衛法通知政令番号：第 76 号 エチレングリコール/第 180 号 酢酸ビニル（エチレン・酢酸ビニル共重合水性エマルジョンに関して）

### 4. 応急措置

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、安静・保温に努め、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師の診察を受けること。

---

皮膚に付着した場合	: 付着した衣類、靴を脱ぎ、付着した部分を水またはぬるま湯で洗う。石けんを用いても良い。外観に変化がある、または痛みがある場合は医師の診察を受けること。
眼に入った場合	: 清浄な水で 15 分間以上洗眼した後、医師の診察を受けること。
飲み込んだ場合	: 水でよく口の中を洗浄し、直ちに医師の診察を受けること。意識がない場合には口から何も与えてはならないし、無理に吐かせてもならない。

---

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 水、二酸化炭素、泡、粉末、乾燥砂を使用する。
使ってはならない消火剤	: 特になし
特有の消火方法	: 火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して風上から消火する。 : 火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。 : 本製品は引火しないが、本製品乾燥物に着火した場合には、危険でなければ可燃性の物を周囲から取り除く。
消火を行う者の保護	: 消火作業の際は、適切な保護具（耐熱着衣など）を使用する。

---

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	: 作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。
環境に対する注意事項	: 河川など環境中への流出を避ける。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	: 多量に漏出した場合は、土のう等で拡散を防止し、凝集・凝固材等で凝集措置をした後、回収する。少量の場合は、乾燥砂、土、ウエス等に吸収させて回収する。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取扱注意事項	: 使用前に取扱説明書を入手すること。 : 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 : 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 : 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
接触回避	: 「10. 安定性及び反応性」を参照。
衛生対策	: 取扱い後は手をよく洗うこと。 : この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
保管	
技術的対策	: 特別に技術的対策は必要としない。
混触危険物質	: 「10. 安定性及び反応性」を参照。
安全な保管条件	: 凍結、高温多湿、直射日光を避け、通風の良い屋内で保管する。 : 5°C以下または 40°C以上にならないようにする。

---

---

	: 容器内の空気をできる限り抜いておく。
安全な容器包装材料	: 破損、漏れのない密閉可能な容器を使用する。

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 珪藻土 E = 3.0 / (1.19Q + 1) E: 管理濃度 (mg/m <sup>3</sup> ) Q: 当該粉じんの遊離けい酸含有率 (%)
許容濃度	: 珪藻土 日本産業衛生学会 (2017 年度版) (吸入性粉じん) 0.5mg/m <sup>3</sup> (総粉じん) 2mg/m <sup>3</sup> (第 1 種粉じん: 珪藻土) ACGIH (2017 年版) TLV-TWA: 0.025 mg/m <sup>3</sup> (Respirable fraction of the aerosol) (Silica, crystalline, α-quartz) : エチレングリコール 日本産衛学会 (2017 年度版) 未設定 ACGIH (2017 年版) TLV-TWA: 25ppm(V) TLV-STEL: 50ppm(V) 10 mg/m <sup>3</sup> (I,H) 「V」: 蒸気及びエアロゾル 「I」: Inhalable Particulate matter: 吸入性の粒子状物質 「H」: エアロゾルのみ (に適用する。) : 酢酸ビニル 日本産衛学会 (2019 年度版) 未設定 ACGIH (2019 年度版) TLV-TWA: 10 ppm TLV-STEL: 15 ppm
設備対策	: 局所排気装置、洗眼、手洗い、身体洗浄用の設備を設ける。
保護具	
呼吸用保護具	: 着用が望ましい。
手の保護具	: 保護手袋 (ビニール製、ゴム製など) の着用が望ましい。
眼の保護具	: 保護眼鏡 (普通眼鏡型、ゴーグル型など) の着用が望ましい。
皮膚及び身体の保護具	: 保護衣の着用が望ましい。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 乳白色
臭い	: わずかな有機物臭
融点/凝固点	: 約 0°C
沸点又は初留点及び沸点範囲	: 約 100°C
可燃性	: 情報なし
爆発下限及び爆発上限界/可燃限界	: 情報なし

---

---

引火点	: 情報なし
自然発火点	: 情報なし
分解温度	: 情報なし
pH	: 5.3
動粘性率	: 情報なし
溶解度	: 水で殆ど無限に希釈可能
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	: 情報なし
蒸気圧	: 情報なし
密度及び/又は相対密度	: 約 1.0 (20°C)
相対ガス密度	: 情報なし
粒子特性	: 該当しない
その他のデータ	: 情報なし

---

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の条件下では反応しない。
化学的安定性	: 通常の条件下では安定である。
危険有害反応可能性	: 情報なし
避けるべき条件	: 低温 (5°C以下)、凍結、高温 (40°C以上)、多湿、直射日光
混触危険物質	: 情報なし
危険有害な分解生成物	: 情報なし

---

## 11. 有害性情報

製品の有害性情報	: 情報なし
成分の有害性情報	
【エチレン酢酸ビニル共重合水性エマルジョン】	
急性毒性 (経口)	: 区分外
急性毒性 (経皮)	: 区分外
急性毒性 (吸入)	: 分類対象外
皮膚腐食性/刺激性	: 区分外
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分 2B
呼吸器感作性	: 分類できない
皮膚感作性	: 分類できない
生殖細胞変異原性	: 区分外
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 区分外
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 区分 1 (中枢神経、呼吸器、腎臓、心臓) 区分 3 (気道刺激性)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 区分 1 (中枢神経、呼吸器、心臓)
吸引性呼吸器有害性	: 分類できない

---

## 【珪藻土】

急性毒性（経口）	：区分外
急性毒性（経皮）	：区分外
急性毒性（吸入：ガス）	：分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	：分類対象外
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	：分類できない
皮膚腐食性/刺激性	：区分外
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	：分類できない
呼吸器感作性	：分類できない
皮膚感作性	：分類できない
生殖細胞変異原性	：分類できない
発がん性	：区分 1A
生殖毒性	：分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	：分類できない
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	：区分 1（呼吸器）
吸引性呼吸器有害性	：分類できない

## 1.2. 環境影響情報

製品の環境影響情報 : 情報なし

成分の環境影響情報

## 【エチレン酢酸ビニル共重合水性エマルジョン】

## 生態毒性

水生環境有害性（急性）	：区分 3
水生環境有害性（長期間）	：区分外
残留性・分解性	：情報なし
生態蓄積性	：情報なし
土壤中の移動性	：情報なし
オゾン層への有害性	：分類できない
その他	：河川・湖沼等に流入すると広範囲にわたり白濁させることになる。また、樹脂の粘着性の影響で呼吸困難を生じ魚類が死亡する場合がある。

## 【珪藻土】

## 生態毒性

水生環境有害性（急性）	：分類できない
水生環境有害性（長期間）	：分類できない
残留性・分解性	：分類できない
生態蓄積性	：情報なし
土壤中の移動性	：情報なし
オゾン層への有害性	：分類できない
その他	：情報なし

---

### 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。
汚染容器及び包装	: 容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

---

### 1 4. 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	: 該当しない
国連分類	: 該当しない
容器等級	: 該当しない
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	: 運搬に際しては容器の破損・漏洩がないことを確かめ、転倒・落下・破損のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。 : 道路や床にこぼした場合は速やかに回収・清掃を行う。 : 排水系等の水面に露出した場合は、河川や海への悪影響を考慮して、全て回収すること。
国内規制	
陸上規制情報	: 該当しない
海上規制情報	: 該当しない
海洋汚染物質	: 該当しない
航空規制情報	: 該当しない

---

### 1 5. 適用法令

化審法	: 優先評価化学物質（法第 2 条第 5 項） 酢酸ビニル
化学物質排出把握管理促進法	: 該当しない
労働安全衛生法	: 名称等を通知すべき有害物（法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9） エチレングリコール（政令番号：第 76 号） 酢酸ビニル（政令番号：第 180 号） : 危険物・引火性の物（施行令別表第 1 第 4 号） 酢酸ビニル : 粉じん障害防止規則 作業環境評価基準 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 1 号、第 2 号別表第 9）（結晶性シリカ）

---

	名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 第 1 号、第 2 号別表第 9）（結晶性シリカ） 危険性又は有害性等を調査すべき物（法第 57 条の 3）（結晶性シリカ）
消防法	: 危険物第 4 類第 3 石油類（水溶性） エチレングリコール
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質（中央環境審議会） 酢酸ビニル
海洋汚染防止法	: 危険物（施行令別表第 1） 酢酸ビニル : 有害液体物質（Y 類物質）（施行令別表第 1） 酢酸ビニル : 海洋汚染物質（Y 類） エチレングリコール

---

## 16. その他の情報

### 参考文献・引用文献

- ・化審法化学物質改訂第 5 版. 化学工業日報社, 2002
- ・製品安全データシートの作成指針. 日本化学工業協会, 2001
- ・吉川治彦. Q&A で解決 化学品の GHS 対応 SDS をつくる本. 丸善出版, 2019
- ・化管法・安衛法におけるラベル表示・SDS 提供制度. 厚生労働省, 平成 30 年 12 月
- ・“GHS 分類結果データベース”. 独立行政法人製品評価技術基盤機構 (NITE) .
- ・“国連 GHS 文書”. 経済産業省.
- ・“GHS 対応モデルラベル・モデル SDS 情報”. 厚生労働省 職場のあんぜんサイト.

### 記載内容に関する問い合わせ先

会社名 : 株式会社リバーコートジャパン  
電話番号 : 0250-47-6071  
FAX 番号 : 0250-24-0181

### 作成年月日及び改訂情報

作成日 : 2012 年 7 月 13 日  
改訂日 : 2023 年 10 月 2 日

---

- ・記載内容については、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の実施を前提としたものでありますので、特殊な取扱いをする場合には用途、用法に適した安全対策を実施の上でご利用ください。
- ・全ての化学品は未知の危険性を呈する可能性があり、ここで示した危険性は、起こり得る全ての危険性を網羅したものであるということを保証するものではありませんので、取扱いには注意してください。

以上